

## 第1回ごみ処理基本構想検討委員会 会議録

### 1 日時

平成27年6月19日（金） 午後4時から午後5時10分まで

### 2 場所

東海市役所 地下大会議室

### 3 議題

- (1) ごみ処理基本構想について
- (2) ごみ処理の基本方針について
- (3) ごみ処理の現状について
- (4) ごみ処理方式の種類について
- (5) 将来ごみ量の推計方法について
- (6) 計画ごみ質の検討方法について

### 4 出席者

委員 10名

オブザーバー 2名

西知多医療厚生組合 7名

東海市 1名

知多市 1名

### 5 傍聴者

26名

### 6 会議内容

#### (1) 開会

事務局より開会挨拶

(2) 委嘱状交付及び委員紹介

各委員へ委嘱状交付

各委員紹介

(3) 管理者あいさつ

西知多医療厚生組合管理者（東海市長）あいさつ

事務局より事務局出席者の紹介

事務局より西知多医療厚生組合ごみ処理基本構想検討委員会設置要綱第6条に基づき、委員10名が出席しており、委員の半数以上が出席していることから委員会の開催を報告

事務局より配布資料の確認

(4) 会長及び副会長選出

検討委員会設置要綱第4条第1項の規定に基づき、委員の互選により、指名推選において会長に千頭委員を選出

会長あいさつ

検討委員会設置要綱第4条第1項の規定に基づき、会長の指名により、副会長に義家委員を選出

副会長あいさつ

(5) 議題

ア ごみ処理基本構想について

事務局より説明

質疑及び意見なし

イ ごみ処理の基本方針について

ウ ごみ処理の現状について

エ ごみ処理方式の種類について

オ 将来ごみ量の推計方法について

カ 計画ごみ質の検討方法について

## 事務局よりイからカまでを一括して説明

### <質疑応答>

#### 【竹内（祥）委員】

ごみ量の推移について、両市ともに平成19年度から減少傾向となっているが、何か対策をとられたのか。

#### 【オブザーバー 沢田所長（東海市）】

東海市では、この時期に新たな具体的な対策はとっていない。東海市のこれまでの取組としては、平成19年度以前からごみを減らしていくためにプラスチック製容器包装のごみ集積場所での収集等を実施している。このような取組の中で、家庭の中でも環境に配慮する意識が高まってきており、ごみ減量に繋がっていると考える。

平成19年度という具体的な時期で考えると、減量意識の高まりよりも、景気影響によるものと思われるが、詳細については、調べさせていただく。

#### 【オブザーバー 立川部長（知多市）】

知多市では、以前から地域のコミュニティや町内会等での資源回収を積極的に行っている。地域活動の中で資源化の意識が高まり、資源回収量が増えてきているため、ごみが減量傾向となっていると考える。

#### 【千頭会長】

平成19年度付近で、新聞販売店が自主回収を始めたということはないか。

両市ともに平成19年度から減少傾向となった理由について、再度検討を行い、第2回検討委員会での報告をお願いします。

その他に質問等はないか。

#### 【高井（智）委員】

資源化量について、知多市では直接資源化量が0 t/年に対して、東海市は49 t/年となっている。また、中間処理後再生利用の資源では、知多市が東海市よりかなり多くなっている。これらはどのような違いによるものか。

#### 【事務局】

この数値は、国の実施している一般廃棄物処理実態調査の結果を取りまとめたものである。ごみ処理過程が各市で異なることから、集計方法も各市で異なり、このような違いが生じている。例えば、東海市ではリサイクルセンターでの処理が必要ない紙類等は直接資源化として集計されているが、知多市では紙類等をリサイクルプラザで

梱包や圧縮等の処理をしており、集計上は中間処理したものとしている。このような理由から、東海市と知多市の数値に違いが生じている。

**【千頭会長】**

この統計における資源として回収している量の中には、スーパー等に持ち込まれた資源の量は、含まれていないと考えてよいか。

**【事務局】**

東海市では、一部の資源をスーパー等の店頭で回収していることから含まれているが、知多市では含まれていない。

**【千頭会長】**

その他に質問等はないか。

**【丹羽委員】**

今まで各市がそれぞれ1施設で実施していたごみ処理を、2市で1施設にする理由の説明をお願いします。

**【事務局】**

ごみ処理施設の広域化という国の施策を受け、愛知県もごみ焼却施設の広域化計画を策定している。この計画に基づき、愛知県内の各自治体も広域化に取り組んでいる状況である。

なぜ広域化するかというと、現在2つある施設を1つの施設にすることで、例えば、ダイオキシン類、硫黄酸化物、窒素酸化物、ばいじん等の環境負荷の低減が可能となることが挙げられる。

次に、施設の規模を大きくすること、新しい施設となることで、ごみ処理過程で発生するエネルギーのより効率的な回収が可能となることが挙げられる。

さらには、ごみ処理に係る事業費について、2つの施設を別々に建設するよりも、1つの施設を建設することで、建設費、運転管理・維持管理に係る経費の双方で削減できると考えている。

**【千頭会長】**

東海市と知多市が施設を1つにするための説明をお願いします。

**【事務局】**

愛知県の広域化計画の中では、東海市、知多市、大府市、豊明市、東浦町、阿久比町の4市2町で1つの施設とする計画となっている。現状では、大府市、豊明市、東

浦町、阿久比町の2市2町が一部事務組合東部知多衛生組合を設置してごみ処理を行っており、建替えとなる新しいごみ処理施設の建設を進めている。各施設の建設時期が異なることから、4市2町が同時に広域化することは困難となっている。

東海市の現施設は平成7年から、知多市の現施設は平成15年から稼動しており、一定期間を経過することから、まずは、東海市と知多市の施設を統合し、1つの施設を建設する計画としている。

**【千頭会長】**

その他に質問等はないか。

**【竹内（栄）委員】**

資料の中に記載されている目標値はどのように算定されているのか。

**【事務局】**

目標値について、例えば、愛知県の目標値では、平成20年度を基準に平成28年度までに9%削減する目標となっている。

廃棄物処理法に基づく基本方針では、平成19年度を基準に平成27年までに5%削減する目標となっている。

循環型社会形成推進基本計画では、平成12年度を基準に平成32年までに25%削減する目標となっている。

このように、計画によって、基準となる年度、目標年度、削減目標等が異なっている。各目標値は、この目標に基づいて設定している。

**【千頭会長】**

市民目線での議論の際には、分別して排出された資源がどこに行くのかということが論点となることもある。各市によって行き先が異なると思うので、この部分についても比較できる資料を第2回検討委員会以降で示していただきたい。

その他に質問等はないか。

**【義家副会長】**

資源化量について、「資源として回収」については、集計上の違いで異なることは良くわかる。もう1つのグラフである「ごみ処理過程で発生」については、絶対値として東海市と知多市に違いがあるが、この要因は何か。

**【オブザーバー 沢田所長（東海市）】**

東海市のごみ処理過程で発生する資源の内訳は、焼却については溶融処理後に発生

するスラグとメタルの売却分を計上している。破碎については燃えないごみ等の破碎処理後の金属の売却分を計上している。

**【稲垣課長（知多市）】**

知多市では、東海市とごみ処理方式が異なり、発生するスラグの品質も異なっている。資源化に向けた取組を行ってきたが、スラグの再利用ができずに埋立処分をしている。破碎については東海市と同様に燃えないごみ等の破碎処理後の金属の売却分を計上している。

**【千頭会長】**

ただいまの議論は、ごみ処理方式の検討の際に再度出てくるかもしれません。

ごみ量に関しては、統計データではなぜ違うのか分かりにくいのかもしれません。これも市民目線での違う提示の方法があるかもしれませんので、可能であれば、検討をお願いします。

その他に質問等はないか。

（委員からの意見等はなし）

**【千頭会長】**

本日の検討委員会は、ごみ処理の状況について、共有することが趣旨である。次回までに資料を確認して質問等があれば、次回の検討委員会で発言をお願いします。

(6) 今後の予定

事務局より第2回検討委員会の説明

日時：平成27年7月8日（水）午後3時～

場所：東海市立市民活動センター 大会議室

(7) 閉会

事務局より閉会の挨拶